

第3回日野川源流探訪

本年度2回目の本会メインイベントである「日野川源流探訪」を4名の会員に御参加いただき、令和4年10月1日（土）に開催しました。



講師:坪倉 敏氏



アケボノソウ

今回は坪倉敏講師より植物を中心とした解説を受けながら源流の碑を目指しました。暑さも和らぎ暖かな日がさす道を進むと、アケボノソウが迎えてくれました。花弁にある緑色の蜜腺にはアリが集まってくるのだそうです。

更に進むと、アサギマダラに出会うことが出来ました。アサギマダラは周遊したり葉に止まったりした後に木々の中へ消えていきました。

源流の碑へ着くと、参加者同士で日野川に対する思いを共有したり、坪倉講師からたたら製鉄にまつわる日野川の歴史の話を知ることが出来ました。これまで長い年月守られてきた自然環境を次世代に引き継いでいくためにも、毎日の生活で何気なく利用している日野川の水や自然環境を大切にする意識を、一人一人が持つことが大切であると再認識しました。

いつもより少人数での源流探訪でしたが、普段はなかなか出会うことができないアサギマダラなどの昆虫が長く留まってくれたり、参加者同士の交流や知識の交換など、源流の豊かな自然の中で穏やかな時間を過ごすことが出来ました。



アサギマダラ



坪倉講師の説明に聞き入る皆さん



源流の碑を囲んで

9月3日（土）にも予定していましたが新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止しました。

中国・四国地区緑化功労者表彰受賞



「日野川の源流と流域を守る会」は、中国・四国地方各県の緑化推進委員会等の公益法人で構成される「中国・四国地区緑化推進協議会」において、令和4年度中国・四国地区緑化功労者に選ばれました。設立以来20年にわたり「日野川源流探訪」をはじめ、森林整備体験や日野川流域の動植物の観察会等を開催し、森林保全に向けた緑化の必要性について、広く県民に向けて学ぶ機会を提供してきたことが認められたことによるものです。

なお、この表彰の伝達贈呈式が令和4年12月3日の設立20周年記念シンポジウムの中で行われ、鳥取県西部総合事務所日野振興センターの柝本義博所長から、松村順史会長に表彰状が贈呈されました。

今後の活動の充実と継続が期待されています。

開催報告

日野川の源流と流域を守る会 設立20周年記念シンポジウム

【共催】 株式会社中海テレビ放送

【協賛】 サントリープロダクツ株式会社天然水奥大山ブナの森工場

【後援】 鳥取県・米子市・日吉津村・伯耆町・日南町・日野町・江府町
米子市水道局・一般社団法人境港水産振興協会

「日野川の源流と流域を守る会」は、今年、設立20周年を迎えました。そこで、これを記念したシンポジウムを令和4年12月3日、米子コンベンションセンターにおいて開催いたしました。当日は、日野川とその流域の恵まれた環境を次の世代に引き継ぐという会の目的を御参加の皆様と共有でき、今後の活動継続に繋げていくよい機会となりました。詳細は次号の会報ひのかわ第42号にて御報告させていただきます。なお、このシンポジウムの模様は、(株)中海テレビ放送特別番組「日野川物語」で放送予定です。

会員の部屋

日野川の源流と流域を守る会会員を御紹介します。

「日野川源流探訪」へ行きました

ねれい ひでのり
会員 根鈴 秀典



私には、日野川源流まで行ってみたいという思いが以前からあり、定年退職したのを機に「日野川の源流と流域を守る会」に入会しました。

日野川の源流と流域を守る会イベントへの最初の参加は、今年10月1日の源流探訪でした。

この日は好天に恵まれ、最高の源流探訪を体験することが出来ました。坪倉講師の道案内に従い、藤原自然保護監視員の興味深い植物の解説を受けながら道を進み、奥深いブナ林に分け入り、沢沿いをゆっくりジグザクに遡行していきます。倒木や落ち葉に埋もれた深山のせせらぎの響きを聞きながらの幽玄な源流探訪で、気が付いたら源流の碑に到着していました。碑の建つ場所で参加者の方々と昼食を食べ、簡単な自己紹介や笹の葉の器作りをしながら、懇親を深めることもできました。

鳥取市佐治にある三国山には登ったことがありましたが、日野川も名前は同じである三国山に源を発していることは知りませんでした。

当日同行の事務局の皆様が、今回の源流探訪の前に道の草刈りをされたということを知り、本当にお世話になりました、とても楽しい一日を過ごすことができました。



日野川の源流と流域を守る会設立20周年記念事業

「学ぼう！遊ぼう！みんなの日野川学校」に参加して

にしばら まさき
会員 西原 正樹



今回、私の叔母からの誘いで参加させてもらいました。思い返せば私も子どものころから自然と触れ合う機会を叔父と叔母から与えてもらい、大人になりましたが、日々の生活に追われて自然のことを忘れがちです。

私は日野川下流域の用水路である米川のすぐ近くに住んでいます。先祖は稲作を中心とした農業を営んでいたため、日野川の恩恵で自然と共生をする生活をしていました。現代では生活スタイルが大きく変化したので、意識しなければ自然のことを忘れてしまいがちです。テレビやゲーム、パソコンなど現代の子どもたちの周りにはメディアや娯楽が溢れています。小学生の子ども二人と参加したのですが、生き物や自然が大好きな子どもたちでさえ、このような機会がないと親としてなかなか自然と触れ合う機会を与えてやることも難しく、本当によい経験をさせてもらったと思います。

イベントに参加して、子どもたちは普段見ることのできないオヤニラミやハッチョウトンボなど、自分たちの住む鳥取県の自然の豊かさに触れることができ、丸一日楽しみました。そして、ただ楽しむだけでなく講師の方から詳しいお話を聞くことができたのが非常によく、子どもたちはとても興味深そうに聞いていました。帰宅後に話をすると子どもながらに日野川と地域との関係に関心を示し、「日野川の上流は水がキレイだった。生き物探しにまた行ってみたい!」と言っていました。

昔からある自然と生物を守っていくことが、自分たちの住む場所の暮らしを豊かにすることに繋がるということに思いを馳せることができたことは子どもたちにとってもとても有意義な時間でした。

最後に10年後の自分にメッセージを書きました。今後どのような世の中になっていくかわかりませんが、この豊かな自然を守っていく意識を持った大人になってもらいたいと心から願うとともに、私自身も自然を守る取り組みが何かできないだろうかと考えているところです。

そして、コロナ禍ということで様々なイベントや行事がことごとく中止になっている現状では、開催にあたって関係者の皆様のご苦勞は並々ならぬものだったと思います。この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



日野川の源流と流域を守る会からのご案内

【中海テレビ放送制作番組】

日野川物語



「日野川の源流と流域を守る会」
設立20周年記念シンポジウム 特別放送回

放送期間：令和4年12月23日(金)～令和5年1月26日(木)

中海チャンネル121にて放送 ※放送時間はケーブルガイドまたは電子番組表(EPG)をご確認ください

〈番組内容〉

上流から下流まで、川にまつわる話、川に関わる人、川に関わるものを鳥取コンベンションビューロー理事長の石村隆男さんと訪ね歩き、地域の特色、文化を紹介しします。また、石村さんも登壇した、「日野川の源流と流域を守る会」設立20周年記念シンポジウムをご紹介します。ぜひ、御覧ください。

日野川の源流と流域を守る会

会員 大募集中!

当会の活動は会員の皆さんに
えられています。

「日野川を日本一美しい川」にするため、日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか？

当会の活動に興味をお持ちの方は、入会手続きや会費などについて、事務局までお気軽に御相談ください。

〔お問い合わせ方法〕

- ・Eメール・ファクシミリ
常時受付・内容確認後に御連絡させていただきます。
- ・電話
月～金曜日 8:30～17:15 (年末年始、祝日等除く)

日野川流域憲章

【前文】

私たちは悠久の時の流れの中で、多くの恵みをもたらしてくれた日野川、その流域のすばらしい自然・環境を守り、日野川の清流化に向けて活動します。

日野川はたくさんの動植物の生命を育み、たくさんの人たちの生活も支えています。

また、日野川流域には伝統ある生活文化・芸術が育まれています。

私たちは日野川の歴史・自然を学び、よく理解して、より豊かできれいな日野川の流れを後世に残すために、みんなで力をあわせて活動します。

そのために、ここに「日野川流域憲章」をつくり、多くの人たちの参加・協力をよびかけます。

【日野川流域憲章の理念】

- ・日野川流域の自然・環境を守り、川と私たちとのすばらしい共存に努めます。
- ・日野川のきれいで豊かな流れが、いつまでも続くように美しい緑の森を守り、育てるように努めます。
- ・日野川流域の交流・連携をすすめます。
- ・日野川流域の歴史・生活文化を学び、その知識を次世代に引き継ぐように努めます。
- ・日野川流域に培われてきた、さまざまな価値ある魅力を大切に、継続的な地域の発展に努めます。
- ・日野川流域を愛する人たちの輪が広がるように努めます。

平成20年8月23日

日野川流域憲章制定実行委員会

紙面で報告させていただいた各事業については、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から参加人数に制限を設け、実施させていただきました。今後も新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しつつ感染予防対策を講じた上で、皆様に参加いただける事業を企画いたしますので、引き続きよろしくお願いたします。(事務局一同)